

秋火

たいと思わせたかを競う「ピ一本」に、中学の部で山本中「めた来場者」に「最も読みたい本」に投票し「違った景色が楽しめる」と語 高校文化連盟主催の一環で、2点の応募があり、うち特賞

「マスターズ花園」

91歳ラグーマン、輝き健在



(第3種郵便物認可)

90歳以上を示す金のラグーパーツをはいた「マスターズ花園」での秋田工高戦に出場した貴田哲弘さん(左手前) 10月、大阪府東大阪市の花園ラグビー場(膳所高OB提供)

高校ラグビーの聖地・花園ラグビー場(大阪府東大阪市)で10月8、10日、40歳以上の元高校ラグーマンが出身校別にチームを組む「マスターズ花園」が初めて開催された。その中でただ一人、黄金のラグーパーツで異彩を放ったのが最高齢91歳の貴田哲弘さん。数年前には心筋梗塞や脳梗塞になったこともあったが、軽快なパス回しは健在。短い出番の中でも周囲の「若手」たちが舌を巻くほどの躍動だった。

秋田工高戦スタメン出場

県立膳所高の前身校に転入。ラグビー班(部)の1期生として汗を流した。今回の大会でも膳所高の一員として参加。俊敏さが求められるスクラムハーフとしてスタメンで約2分間出場。ラグーパーツは年代ごとに色分けされており、90歳以上を示す金のパンツをはいて挑んだ。芝生の上で転ぶ場面もあったが、懸命にボールをつないだ。「普段通りプレーした」と貴田さん。花園での本格的なプレーは約20年前のねんりんピック以来だった。高校ラグビー最多15度の全国優勝を誇る秋田工高に0-34で完敗したが「懐かしかった。もう一度花園でラグビーができてよかった」と喜びをかみしめた。

この試合に秋田工高のブロップとして出場した秋田市の自営業清水英博さん(58)は「90歳を超えていると思えなかった」と貴田さんの軽快な動きに脱帽の様子。タックルは危険と考えて「ボールを持って突進してきたら、お姫様抱っこで迎えようと思っていた」。スクラムから貴田さんがボールを持つ場面があったが、パスでつないだため、思惑はかなわなかった。試合後に握手を交わし、謙虚な姿が印象的だったという。

貴田さんは卒業後、競技から離れた。自動車ディーラーをしていた40代の頃、知人の誘いで「やれるならやってみよう」と40歳以上が参加する大阪府のチームで再開し、今は滋賀県のチームで続けている。腰が曲がることなく、練習でも腕をしっかりと振って走る姿にチームメートの膳所高OBは感服しっぱなし。大きなけがをしたことはないというが「けがを事前に体力がなくなるので」とユーモアを交えて話すあたりに飾らない人柄がにじむ。